

みんなの DREAM LIFE

構成 / 伊藤翼
写真提供 / 古川幹夫、熊田文男

世代を問わず、カラテドリームフェスティバルで奮闘する選手にスポットを当て、空手やドリームにかける思いを探るこの連載。今回は、ドリーム2018で最年長タイとなる67歳での出場をはたした古川幹夫さんを紹介する。

スキューのキャリアは60年以上

地元の会津若松は雪国なので、私は小学校に入る前からスキーをやっています。SAJ（公益財団法人全日本スキー連盟）の指導員資格も持っていて、冬場には都会から来た中学生や高校生のスキー教室で、インストラクターを務めています。軸をつくる、左右対称に動かすなど、空手にはスキーと共通する部分が多く、そういう意味でも空手は私に合っていました。

師匠・三瓶啓二師範の存在

私が黒帯をいただいたのは、50歳の時でした。最近三瓶啓二師範から教えていただいた腹式呼吸や逆腹式呼吸など、歳を取ってからもできる空手を追求しています。技術的な面だけでなく、三瓶師範からは「体は何もないですか？」と、よくお気遣いの言葉をかけていただきます。空手を長く続けられているのは、三瓶師範のおかげだと思っています。自分も三瓶師範のように、生涯空手家を目指しています。

ラストチャンスにすべてをかける

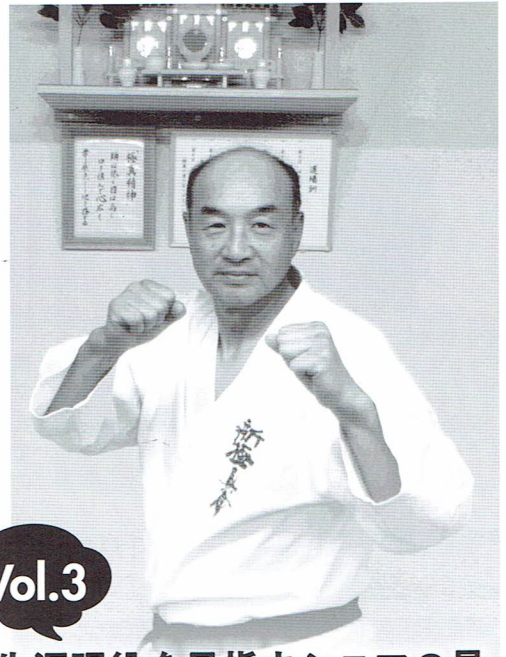
ドリームフェスティバルは私のようなシニア世代にとっても、これからも空手をがんばるぞとさせてくれる大会です。全国にいる同年代の方々や交流するののもひとつの楽しみで、毎年刺激をもらいます。年齢制限で試合に出られない年もありますが、今年は65歳以上70歳未満というカテゴリーができたため、出場することができました。今年と同じ年齢区分であれば、69歳の学年となる来年はラストチャンスです。いまだドリームでは優勝・入賞がないので、是が非でも勝ちたいと思っています。

デビュー戦の完敗で闘志に火

41歳の時に、スキーの体力をつけるために空手を始めました。それまで格闘技経験はありませんでしたが、たまたま息子の高校の近くに道場のポスターが貼ってあり、妻に勧められる形で福島支部に入門しました。それから3年くらい経った44歳の頃、福島県大会で新設されたシニアの試合に出場しましたが、35歳の黒帯の方にボコボコにされて負けました。それが本当に悔しくて、強くなってやるぞと思いました。大きな転機になったと思います。

仕事にも好影響を与えた空手

私は稲作農家を営んでいます。農作業に使うトラクターやコンバインは運転席が高い場所にあるので、下段蹴りをもらって足を痛めた時などは登るのに苦労しますね。収穫時期の秋になると一度に30kgの米を搬送するのですが、空手で鍛えられているからか作業が苦にならなくなりました。その他にも、空手を始めてからは風邪を引かなくなったと思います。



Vol.3

生涯現役を目指すシニアの星 古川幹夫

ふるかわ・みきお

福島支部

1951年1月10日生まれ、67歳
福島県出身。初段



1 古川さんは福島支部の会津北道場で週2回の稽古に励んでいる。2 道場の仲間たちと。前列中央は熊田文男分支部長。3 ドリーム2018は男子65歳以上70歳未満に出場。決勝戦で神奈川東横浜支部の喜田幸利師範代に敗れ、優勝はならなかった。4 今年の東北大会（シニア大会）グランドシニアの部決勝で熊田分支部長と初の師弟対決に臨んだが、惜しくも敗北。「今度は勝ってリベンジしたい」と意気込む。5 古川さんはスキーのインストラクターとしても活動している。左は奥様。6 家業である農作業を行なう古川さん。会津若松市は米の産地としても有名だ